

令和二年度 四国歯科衛生士学院専門学校
入学試験問題
国語

その一

一 次のを読み、あとの間に答えなさい。

詩と科学、遠いようで近い。近いようで遠い。どうして遠いと思うのか。科学は厳しい先生のようにだ。いいかげんな返事はできない。込み入った実験を①タンネンにやらねばならぬ。むつかしい数学も勉強しなければならぬ。詩はやさしいお母さんだ。どんな勝手なことを言っても、大抵は聞いてくださる。詩の世界にはどんな美しい花でもある。おいしい果物でも。しかしなんだか近いようにも思われる。どうしてだろうか。出発点が同じだからだ。どちらも自然を見ること聞くことから始まる。薔薇の花の香りをかぎ、その美しさをたたえる気持ちと、花の形状を調べようとする気持ちの間には、大きな隔たりはない。(a) 薔薇の詩を作るのと顕微鏡を持ち出すのではもう方向が違っている。科学はどんどん進歩して、たくさん専門に分かれてしまった。いろんな器械がごちゃごちゃに並んでいる実験室、訳のわからぬ数式がどこまでも続く書物。もうそこには詩の影も形も見えない。科学者とは (b) 詩を忘れた人である。詩を失った人である。

そんなら一度失った詩はもはや科学の世界には戻ってこないのだろうか。詩というものは気まぐれなものである。ここにあるだろうと思つて一生懸命に探しても詩が見つかるとは限らないのである。ごみごみした実験室の片隅で、科学者は時々思いがけなく詩を発見するのである。

②シロウト目にはちつともおもしろくない数式の中に、専門家は目に見える花よりもずっと美しい自然の姿をありありと認めるのである。しかしすべての科学者が隠された自然の詩に気がつくとは限らない。科学の奥底に再び自然の美を見いだすことは (c) 少数の優れた科学者だけに許された③トッケンであるかもしれない。(d) 一人の人によつて見つけられた詩は、いくらでも多くの人に分けることができるのである。

いずれにしても、詩と科学とは同じ所から出発したばかりではなく、行き着く先も同じなのはなからうか。そしてそれが遠く離れているように思われるのは、④トチュウの道筋だけに目をつけるからではなからうか。どちらの道でもずっと先のほうまでたどって行きさえすれば、だんだん近よつて来るのではなからうか。そればかりではない。二つの道は時々思いがけなく⑤コウサすることさえある。

問一 傍線①から⑤のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 (a) (b) (c) (d) に当てはまる適切なことばを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア むしろ イ しかし ウ ただし エ つまり

問三 第一段落を二つに分けるとすればどこで分けられるか。後段の始めの五字を書きなさい。

問四 科学者と同じ意味で用いられていることばを文中から探して答えなさい。

問五 傍線「詩と科学とは同じ所から出発した」とあるが、「同じ所」とは何が同じ所なのか。文中のことば十一字で答えなさい。

二 次の文章を読み、あとの間に答えなさい。

私は明治の初期に、欧米の新しい思想や風俗が乾いた海綿に（ ① ）水がしみ込んでいくように当時の若い人々の（ ② ）精神に吸い込まれていった。いわゆる文明開化の時代を一種（ A ）の念をもって追想するのである。

私たちは感情を少しも偽ることなく、自由に、（ ③ ）表白することができるはずなのに、自分の心の中を振り返ってみると、いつのまにか無邪気さを失い、人生に対して（ ④ ）疑い深くなり、人間の能力や希望などは（ ⑤ ）高が知れたものであるという、変に老人じみた考えが案外に深く根を下ろしているのに気がつく。肉体も欲望も若さで張り切っているのに、心が何者に対しても活発に働きかけないという奇妙な状態に陥っている。このままで捨てておけば、せつかく手に入れた青春を、いたずらに官能的な欲望の満足や、デカダンな生活にすり減らしてしまう危険が十分にあるのである。現にその兆候は至る所に見られている。私たちは今こそ真剣になって、青春の意義について考えてみなければならぬであろう。青春を生かすのも殺すのも、全く私たち自身の責任にかかっているからである。

アンドレ・モロアは老年とは、白髪とか顔のしわとかというものよりはむしろ、もう立ち遅れだとか、勝負が済んだとか、舞台がもう次の時代に移ったという感情である。老年の真の不幸は、肉体の衰えではなくて、心が何者にも動かないことである。老年期に入って消え失せるものは、力よりはむしろ、行動の意欲である。何事にも動くあの青春の（ a ）何事をも知り何事をも理解しようとするあの（ b ）新しい環境が発見されることに、心に兆すあの果てしない（ c ）、なんら余す所なく愛そうとするあの（ d ）、真と善と美と一つであることに何の疑いをも残さないあの（ e ）、それらは果たして五十年の間、様々な経験と失意とを重ねた後で、なおかつ持ち続けられるものだろうか。と書いているが、私は青春の最も大切な意義は、人生と人間に対する無限の信頼の中にあると考える。

問一 空欄 A に当てはまる最も適当なことを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 絶望 イ 羨望 ウ 希望 エ 待望 オ 熱望

問二 空欄①～⑤に当てはまる最も適当なことを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア のびのびと イ どうせ ウ 清らかな エ おそらく
オ ひどく カ 柔らかな

問三 空欄 a～e に当てはまる最も適当なことを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 希望 イ 情熱 ウ 確信 エ 要求 オ 力

問四 アンドレ・モロアが書いた(言った)部分はどこからどこまでか。始めと終わりの四字を答えなさい。ただし、句読点は含まない。

二			
問四	問三	問二	問一
始め	a	①	
	b	②	
		③	
終わり	c	④	
	d	⑤	
	e		

一				
問五	問四	問三	問二	問一
			a	①
			b	②
				c
			d	④
				⑤

受験番号

二			
問四	問三	問二	問一
始め	a イ	① ウ	イ
老	b エ	② カ	
年		③ ア	
と		④ オ	
は	c ア	⑤ イ	
終わり			
だ	d オ		
ろ			
う			
か	e ウ		

⑩

④
×
11
44

一				
問五	問四	問三	問二	問一
自	専門家	し	a イ	① 丹念
然		か	b エ	
を		し		② 素人
見	な	c ア		
る	④		⑤	③ 特権
こ	ん	d ウ		
と			④ 途中	
聞		⑤ 交差		
く				
こ				
と				

⑩

③
×
9
27

受験番号